優秀賞

○設計者

赤木 隆

●大阪府建築士会
●(株)日建設計

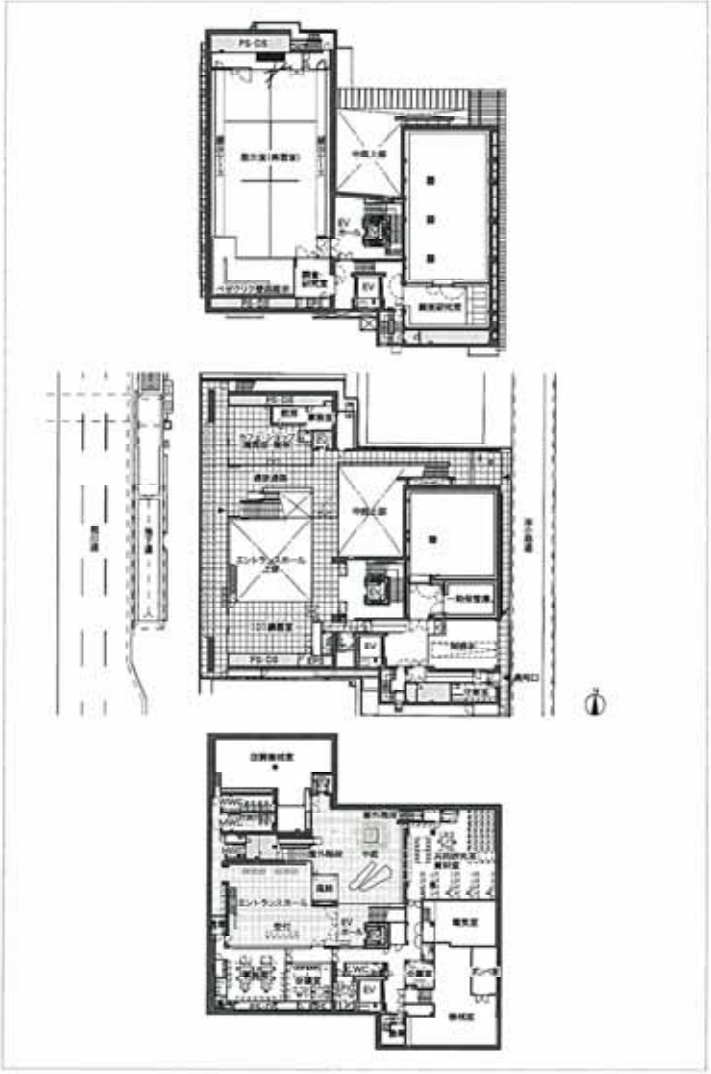
○博物館

龍谷大学 龍谷ミュージアム

●京都市下京区西中筋通

A

B



平面図(上から順番に、2階、1階、地下1階)

▶▶▶ 選 評

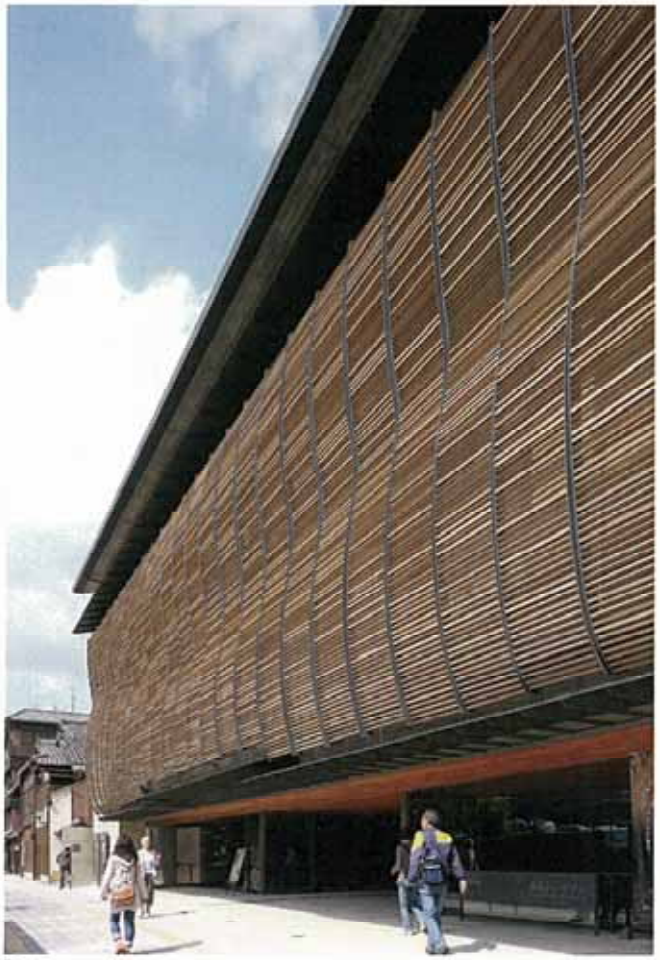
京都市の主要幹線道路である堀川通に面して建つ博物館であり、性格の異なる2つの道路に面する都市的な建築空間の提案である。正面向かい側には西本願寺の境内が広がり、後ろの油小路側には伊東忠太の伝道院が建つ。そうした歴史的環境ではあるものの、堀川通は車の交通量が極めて多く、散策する歩行者は少ないのに反して、油小路はむしろ京都的なスケールと人の流れを持つ道路である。この建築は、そうした全く性格の異なる2つの道路に面するため、表と裏の立面は、構成も素材もまるで異なっていると同時に、訪れる来館者や近隣のコミュニティの人たちにとっては、その2つの道路を繋ぐプロムナードの機能を果たしている。

そのプロムナードや中庭部分のスケール感が少々小さく感じられたのだが、それは濃厚過ぎるほどに表現された素材感や詳細意匠、同時に空間全体の設計密度の高さの故かもしれない。

歴史的な意匠に対応することを求められる場所であることから提案された堀川通側正面ファサードは、同時に疾走する自動車のスケールにも対応せねばならず、設計者の苦労された部分だと考える。ただ、その波状形状が恣意的に所蔵写本の部分的形状から採用されたという点については疑義が出され、京都という都市の歴史性や交通量の多い前面道路といった客観条件から論理的に導き出して欲しかった、という意見があったことはここに記しておきたい。

付記的な意見はともかく、その設計密度の高さは賞賛に値するものであり、優秀賞に値すると考えた。
(岸 和郎)

C



D

E

F

G

A：西本願寺と対峙するミュージアム
B：中庭に沿って敷地を貫く通り抜け通路
C：夕暮れに浮かび上がるファサード
D：堀川通沿いのファサード。波状で躍動感あふれるセラミックルーバー
E：地下であることを感じさせないエントランスホール
F：伝統的な漆喰壁と光壁による階段室
G：実物展示を主体とした展示室

写真撮影：D・E　近代建築社／A・B・C・F・G　東出清彦

● 構造・階数：鉄骨造＋鉄筋コンクリート造＋鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階建て、地下1階
● 敷地面積：1,671.69㎡　● 建築面積：1,342.85㎡　● 延床面積：4,412.65㎡　● 竣工：平成22年7月31日